

能「隅田川」 すみだ が わ

（四番目物/観世十郎元雅/場所：隅田川）

【あらすじ】

東国の果て、武蔵と下総の国境を流れる隅田川の晩春。渡守の船頭（ワキ）に問答を言い掛けて乗船した狂女（シテ）は、一年前の今日・三月十五日に川向こうの路傍で死んだ少年・梅若丸の悲話を聞かされる。人商人に拉致されたその少年こそ、はるばる都からさすらう狂女が探し求めたわが子であった。同情した多くの人々の唱える徹夜の大念仏に混じる梅若丸の声。出現した幽霊は、とらえようとする母の手を逃れて消え去る。夜が明けてあとに残るのは、春草に埋もれ青柳の芽吹く、ささやかな塚だけであった。

少数ながら個性的な名曲を遺した観世十郎元雅の作。神仏の加護により母子再会がかなうのが狂女を母親役にする能の定型だが、元雅はそれを否定し絶望的な悲劇を設定した。同時に、奇蹟の認定、大自然の慰謝、父・世阿弥が考えなかった先鋭的なドラマをも創造している。数ある能の中でも抜群の知名度を持つ傑作ながら、類作とは比較にならない野心作でもある。古典詩劇・能の可能性の極北がここに雄渾に示されている。（能解説・村上湛）

狂言「棒縛」 ぼうしばり

【あらすじ】

主人が留守をするたびに太郎冠者と次郎冠者が酒を盗んで飲むので、ある日主人は、次郎冠者の両腕を棒にくくりつけ、太郎冠者を後手に縛り上げてから外出します。残された二人は、なんとかこの不自由な格好で酒が飲めないかと知恵を働かせ、互いに相手に酒を飲ませる方法を考えつきます。あとは飲めや謡えやの酒盛りになり…。

横着な家来たちと、これに手をやく主人との対立を明るく描いた作品。縛られた姿で酒を飲もうとする姿がなんとも滑稽で、上演頻度の高い人気曲です。

大槻 文蔵（おおつき ぶんぞう）プロフィール



シテ方観世流。

1942 年大阪生まれ。大槻秀夫の長男。祖父十三、父秀夫および観世寿夫、八世観 世鍔之丞に師事。'47 年「鞍馬天狗」にて初舞台以降、三老女の被演とともに復 曲能、新作能にも積極的に携わる。紫綬褒章、旭日小綬章、日本学賞など受賞多数。大阪能楽養成会副会長、大阪文化芸能国民健康保険組合理事長、公益財団法人大槻能楽堂理事長。2016 年重要無形文化財保持者各個認定（人間国宝）、2016 年度日本芸術院賞受賞、2018 年文化功労者選定。

茂山千五郎（しげやま せんごろう）プロフィール



狂言方大蔵流。

4 歳の時に『以呂波』のシテにて初舞台。その後『三番三』『釣狐』『花子』『狸腹鼓』を披く。過去には『花形狂言会』『狂言小劇場』『心・技・体、教育的古典狂言推進準備研修錬磨の会＝TOPPA!』また若手能楽師による能楽グループ『心味の会』を主催し、狂言のみならず能楽のファン開拓にも力を注ぐ。現在は『茂山狂言会』『Cutting Edge KYOGEN』、弟茂との兄弟会『傳之会』、落語家桂よね吉との二人会『笑えない会』を主催し、幅広い年代層へ狂言の魅力を伝える。また上海京劇院・戯慶谷や川劇変面王・姜鵬とのコラボ公演など、他ジャンルとの共演も精力的に行う。

平成 28 年 十四世茂山千五郎を襲名